

二〇二二年度

入学試験問題

(二月一日午後)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙六ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事があるときは、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(なお、作問の都合上、省略した部分があります。)

人間以外の動物にとって、生きることは食べることである。しかし、それを実現するには、いつ、どこで、何を、だれと、どうやって食べるか、という五つの課題を乗り越えねばならない。現代の科学技術と流通革命は、その多くを個人の自由になるように解決してきた。24時間営業のコンビニエンスストアや自動販売機。車や飛行機などの輸送手段や、インターネットを利用した通信手段。電子レンジやファストフードなどの調理や保存の技術。これらは私たちが、いつでも、どこでも、どんなものでも、好きなように食べることを可能にした。

しかし、技術によつては変えられない課題もある。それは、
(一) ① 食べるかということだ。

ふだん単独生活をしているクマやカモシカのような動物には、この課題は必要ない。なわばりをつくつて他者の侵入を防いだり、他者と出会わないようにして餌資源を確保したりすればいいからだ。しかし、群れをつくる動物は常にこの問題に直面する。とりわけ複雑な社会生活を営む人間にとって、いっしょに食べる相手は重要である。もちろん、移動手段の革新によつて、遠くに住む知人や親族に会うことができるようになった。だが、だれと食卓を囲むかは、昔も今も個人の自由裁量によつては決められない。

古来、人間の食事には、栄養の補給以外にも他者との関係の維持

や調整という機能が付与されてきた。いやむしろ、他者という関係をつくるために食事の場や調度、食器、メニュー、調理法、服装からマナーにいたるまで、多様な技術が考案されてきたといつても過言ではない。どの文化でも社交の場として食事を機能させるために、莫大な時間と金を消費してきたのである。それは②効率化とはむしろ逆行する特徴をもっている。

サルは食事は人間とは正反対である。群れで暮らすサルたちは、食べるときは分散して、なるべく仲間と顔を合わせないようにする。数や場所が限られている自然の食物を食べようとすると、どうしても仲間とはち合わせてけんかになる。だから、仲間がすでに占有している場所は避けて、別の場所を探索しようとするのだ。でも、あまり広く分散すると、肉食動物や猛禽類にねらわれて命を落とすおそれが生じる。仲間といれば外敵の発見効率が上がるし、自分からねらわれる確率が下がる。そこで、仲間と適当な距離を置いて食事をすることになる。

しかし、食物が限られていれば、仲間と出くわしてしまうことはある。そのときは、(一) あ (一) ほうのサルが食物から手を引つこめ、(一) い (一) サルに場所を譲る。サルたちは互いにどちらが強いかわかをよくわきまえていて、その序列にしたがって行動する。それに反するような行動をとると、周りのサルが寄つてたかつてそれをとがめる。優劣の序列を守るように、勝者に味方するのである。

(一) う (一) サルは食物を独占し、他のサルにそれを分けるこ

とはない。サル社会では、食物を囲んで仲よく食事をする光景は決して見られない。でも、サルの基本的な食物は植物なので、（ え ）サルに独占されたからといって食物に困るわけではない。ちょっと移動すれば、食べられるフルーツや葉っぱが見つかる。要するに、サル社会のルールは、食べるときはけんかしないように分散して個食をしましょう、そのためには（ お ）サルが広く分散しましょう、ということなのである。

けんかの種となるような食物を分け合い、仲よく向かい合って食べるなんて、サルから見たらとんでもない行為である。③なぜこんなことに人間はわざわざ時間をかけるのだろうか。

それは、相手とじっくり向かい合い、気持ちを通じ合わせながら信頼関係を築くためであると思ふ。相手と競合しそうな食物をあえて間に置き、けんかをせずに平和な関係であることを前提にして、食べる行為を同調させることが大切なのだ。同じ物をいっしょに食べることによって、ともに生きようとする実感がわいてくる。それが信頼する気持ち、ともに歩もうとする気持ちを生み出すのだと思ふ。

ところが、前述した近年の技術はこの人間的な食事の時間を短縮させ、個食を増加させて④社会関係の構築を妨げているように見える。自分の好きなものを好きな時間と場所で好きなように食べるには、むしろ相手がいけないほうがいい。そう考える人が増えているのではないだろうか。

でも、それは私たちがこれまで食事によって育ててきた共感能力

や連帯能力を低下させる。個人の利益だけを追求する気持ちが強まり、仲間と同調し、仲間のために何かしてあげたいという心が弱くなる。勝ち負けが気になり、⑤勝ち馬に乗ろうとする傾向が強まって、自分に都合のいい仲間を求めようになる。つまり、現代の私たちはサル社会に似た（ X ）な個人主義社会をつくろうとしているように見えるのだ。

2013年に、⑥和食がユネスコの無形文化遺産に登録された。登録にいたったのは、自然を尊重する日本人の基本精神にのっとり、地域の自然特性に見合った食の慣習や行事を通じて家族や地域コミュニティの結びつきを強める重要な文化だからというのが主な理由だ。大変いいことだと思ふ。これを機に、和食と日本人の暮らしについて過去の歴史をふり返り、食の文化を育んできた日本列島の自然と人間との関わりについて多くの人々が思いをめぐらすようになってほしい。

（中略）

食事は、人間どうしが無理なく対面できる貴重な機会である。人間の顔、とりわけ目は、対面コミュニケーションに都合よくつくられていて。人間の目には、サルや類人猿の目と違って白目がある。この白目のおかげで、1〜2メートル離れて対面すると、相手の目の動きから心の状態を読みとることができるのだ。

顔の表情や目の動きをモニターしながら相手の心の動きを知る能力は、人間が生まれつきもっているもので習得する必要がない。しかも、目の色は違っていても、すべての人間に白目がある。という

問五

——線部④「社会関係の構築を妨げている」とありますが、これはどういうことですか。三十字以上四十字以内で説明しなさい。

問六

——線部⑤「勝ち馬に乗ろうとする」とありますが、これと同じ意味で使われている部分を本文中から七字で抜き出して答えなさい。

問七

(X) と (Y) には対の表現となる言葉があてはまります。その組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア	X	肯定的	Y	否定的
イ	X	理想的	Y	現実的
ウ	X	偶然的	Y	必然的
エ	X	閉鎖的	Y	開放的

問八

——線部⑥「和食がユネスコの無形文化遺産に登録された」とありますが、その理由の具体例としてふさわしくないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 季節に応じて食材を一番おいしく食べる、旬という考え方があるから。

イ 他国の食事マナーにはない、音をたてて食べるなどの独自の文化があるから。

ウ お正月にはおせち料理を食べるなど、行事と料理が結び付いた風習があるから。

エ 地域の特性を活かした郷土料理を、彩り豊かに味わうことが出来るから。

問九

——線部⑦「それ」が指す内容として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 目の色は違っていても、すべての人間に白目があるという事。

イ 白目は、チンパンジーとは違う人間にとつての古い特徴であるということ。

ウ 表情を読みとることは、人間の生まれつき持っている能力であるということ。

エ 人間は他人に共感する間柄を作ることが不得手であるということ。

問十

——線部「食事のもつコミュニケーション」とありますが、あなたがその良さを実感した経験を二百字以内で書きなさい。

二

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

タイキチユウノニサンカタソガフエルトチヒヨウ
ノオンドガアガルコトヲスウチデシメシタケンキュ
ウニノーベルヅリガクシヨウガジユヨサレマシ
タ。キコウヘンドウノケンキュウハチキュウノカコ
ヲキュウメイシルコウコガクニチカイガクモントイ
ワレテイマシタガチキュウオندانカタイサクニツ
ナガルコノケンキュウハミライヲミトオスケンキュ
ウトシテオオキクヒヨウカサレタノデス。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 作文の骨子を書き上げる。
- (2) 正月には郷里に帰る。
- (3) 王として君臨し続ける。
- (4) 皇室の様子が報道される。
- (5) 江戸時代に起きた倒幕運動。
- (6) 大きく深コキユウをする。
- (7) 体育館のカクチヨウ工事を進める。
- (8) 家族で神社にサンバイする。
- (9) シジヨウを交えずに話をする。
- (10) 各学校でレンメイを組織した。

四

次の(1)～(5)の表現の誤りを指摘し、意味が正しくなるように漢字一字を改めなさい。

- (1) 友人に文句を言われて思わず首に血が上ってしまった。
- (2) 親に怒られて、妹は青菜に水だ。
- (3) 厳しすぎる練習に名を上げてリタイアする。
- (4) 発表の代表者として白派の矢がたつ。
- (5) サッカーの技術に関しては、ぼくに一日の丁がある。

